



どれくらいきれいな川なら、魚はすめるの

水中に酸素があり、農薬などがなければ魚はすめる

魚は、種類によっては、かなりよごれた川でも平気です。でも、川が、ひどくよごれてくると、細菌や微生物が増えて、水にとけている酸素が減ってしまうため、えらで呼吸している魚たちは、生きていけなくなります。

また、たくさんの農薬や、工場の有害なものをふくむ排水などが、そのまま流れてくる川には、魚はすめません。有害な薬品が、魚を殺してしまうからです。農薬や工場排水が流れないよう禁止をした後も、何年間かは、川のどろの中や水草、水生こん虫や貝の体の中などに薬品がたまって残っていることがあります。それらをえさにする魚は、病気になったり死んだりするため、そういう川には、しばらくは魚が見られません。

魚は、えさ、水温、自分にあった場所がある川にすむ

呼吸するのに必要な酸素がとけていて、有毒なものがない川なら、魚はすめます。ただし、それぞれの魚の種類によって、自分のえさがたくさんあり、水温や流れの速さがきとうで、どろの底や水草がしげった所があるなど、すみ場所が必要です。

アユのようにコケを食べる魚なら、コケが生えている石がある川でなければなりません。えさになる、水生こん虫やカニなどの小動物がたくさんいる川には、魚は種類も数も多くいます。水生こん虫や小動物が多い川は、川のまわりや上流に、栄養分を流してくれる森やたくさんの植物があり、えさになるこん虫も飛び回っている川ということになります。(監修・安部 義孝)

